



必要 = 自然 この方程式の中に秘められた美

建築家・家具デザイナー 北田 たくみ

のるすくショールーム(銅の放射冷暖房システム)

私が銅に魅かれる大きな理由はその素材感だ。一見派手そうに見えて、その実つましいというか、日常生活で身の回りに見え隠れする金属の中で一種独特なオーラを放つ唯一の材料である。銅の持つそのすぐれた特性から家電の部品や設備の配管といった人の目に触れない場所に使われるケースが多いが、私はあえてその美しさに着目したい。

仕事から色々な素材を自由に扱える好都合なポジションにいるせいもあり、私から見たい銅という素材は空間を創造する際になくてはならない大事な要素の一つとして木や土、鉄、紙、ガラスなどと同様に幅広く取り入れていきたいと思っている。

のるすくショールームの写真を見てほしい。赤い椅子の手前に立っているパーティションは銅管で製作されていて、しかも放射式の冷暖房システムでもある。

このようにインテリアに対して建築が絡むと家具としてのパーティションだけにとどまらず、その形の中に空調の機能をもたせて、空間と溶け込ませてしまうことも可能になる。ファッションはやせ我慢を良しとする美の追求をいとわないが、居心地を考えるデザインはそうはいかない。あくまで必要の枠の中で機能的な美を追求してゆくことが大切になる。必要⇨自然。この方程式の中に秘められた美を、空間の中に表現してゆくことが私の仕事だと思っている。

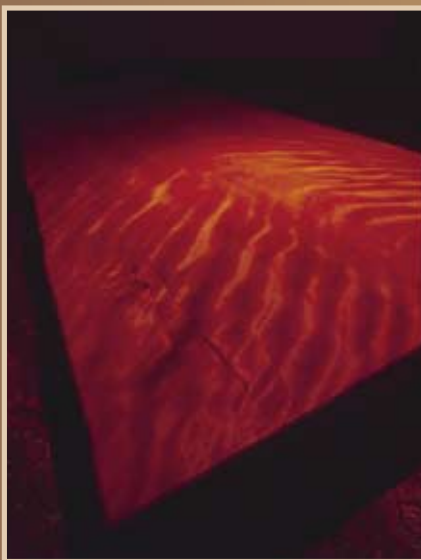
建築や家具について、話し始めるときりがなくなるので今回は空間を構成するいくつかの素材、そしてそれぞれの素材にこだわる職人やアーティストの存在を少しだけご紹介してみようと思う。



C 鉄



A 木とアルミ



E 樹齢250年の1枚板



D 木と土



B 紙

建築家・家具デザイナー
北田 たくみ
きた た



個人住宅や店舗の設計、そしてリフォームまで、(株)のるすく代表取締役として幅広く活躍中。劇画の原作や脚本家を経て、建築を志し、現在に至る。著書には、木と話ができる少年の話「バブ」など多数あり。ちなみに「のるすく」とは、スウェーデン語で「北」。北田氏の北である。
<http://www.norsk.jp>

- A** 栗の木のキャビネットを拭き漆で仕上げ、その中央に彫刻家菱山裕子の作品アルミネツユの「フェイス」を組み込んだ。
- B** PSの白いヒーターと壁と天井に和紙作家服部朝子の「しずく」という作品。
- C** 玄関引戸(ナラ)の取手と装飾、鉄の彫刻家眞壁廉の作品。
- D** 床の割タイルは陶芸家松本昌樹にサクラの花びらの色になるよう依頼。土壁はぬり貫による版築壁。靴箱はのるすく作。
- E** そして、水目桜の美しい一枚板のテーブル。私は、これまでたくさんの無垢の家具や建具をデザインしてきた。その人生の中で木を嫌いという人をあまり知らない。ならば、銅はどうだろうか？好きか嫌いかをYES、NOで答えるとしたら。銅が金属というグループの中にありながら何かしら「あたたかみ」を感じてしまうのは私だけだろうか。私は迷わず「YES」である。